



戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.13

(2014年12月25日号)

〒101-0063東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921



【追悼】菅原文太さん

11月28日、「戦争をさせない1000人委員会」呼びかけ人の菅原文太さん(農業生産法人代表・俳優)が逝去されました。今年3月の「1000人委員会」発足の際に菅原さんからいただいたメッセージを再掲するとともに、心から哀悼の意を表します。

“「再び戦争をしてはならない」

それが俺のただひとつ唱える念仏だ”

菅原文太さん(農業生産法人代表・俳優) こういうところで喋る柄じゃないと思いますが、戦争反対に反対するいわれはないので出てきました。1週間雨続きで、10人くらいしか集まらないのではないかと心配しましたが、この会が始まったら急に青空になって気持ちがいいですね。こんな青

空を見ていると、この先に本当に戦争なんてあるのだろうかとかさっきから思っていました、あるのかもしれない。戦争というのは、政治家を含めて色々言っているけれども、言ってみれば暴力です。暴力映画をしきりに撮ってきた私が言うのもなんだけど、あれは架空の話です。皆さんに楽しんでもらう以外の意図は何もありませんでした。ここへ来て急に戦争の音が飛び交うようになって、ついこの間まで普通に暮らしていたのが、皆さん今そのことをどう思われているのでしょうか。戦争とか反原発という中で、私のような柄のものが難しいことを話すことはできませんが、戦争中の身近な話をしたいと思います。

私は昭和8年生まれですから、戦争が始まったのは小学校2年生の時です。戦争が始まった次の年に、親父が40歳過ぎで戦争に持って行かれました。帰ってきたのは6年後で、戦争が終わった昭和23年でした。寄宿舎に突然訪ねてきて、私も親父も何も喋らないで、親父は「それじゃあな」と言って帰って行った。親父は5人兄弟で、長男もそのちょっと前に持って行かれた。続いて親父。親父の次の3男は肺病だったので戦争には行かずにすんだけれども、早くに亡くなってしまった。4男も赤紙で戦地へ向かって、それっきり帰ってきません。フィリピンから一通の手紙が届いたきり、その後どこへ転じて行ったのかどこで死んだのか、餓死だったのか弾に当たって死んだのか、それも不明です。全くいまだに神の国から戻ってこない。長男は帰ってきたけど、生涯マラリアに苦しめられて死にました。親父も帰ってきて、その後の暮らしは言ってみれば生涯棒に振ったということで終わっています。

戦争はよくないです、戦争は絶対にやめなきゃだめです。もし始まったら、皆さん命を賭けましょう。私はもう80歳だから惜しくない。と言って一人で走って行ってぶつかってあんまり意味がない。皆さん一緒に戦争反対の気持ちを、今日、明日、明後日で終わらずに、これからも皆さんの子どもや孫と一緒に闘い続けましょう。

(2014年6月12日「戦争をさせない全国署名提出集会」日比谷野外音楽堂でのアピールより)



6月12日「戦争をさせない全国署名提出集会」にて

(日比谷野外音楽堂)

【追悼】本島等さん

10月31日、「戦争をさせない1000人委員会」呼びかけ人の本島等さん（元長崎市長）が逝去されました。平野伸人さん（全国被爆2世団体連絡協議会前会長）からいただいた追悼メッセージを掲載し、心から哀悼の意を表します。

追悼 元長崎市長・本島等さん

10月31日午後5時27分、元長崎市長・本島等さんが92才で亡くなった。90才を越えても市民運動の先頭に立ち、今年の1月1日の「核兵器の廃絶と平和な世界の実現を求める正月座り込み」にも13年連続で参加された。

1988年12月7日、長崎市議会での「昭和天皇の戦争責任があると思う」と発言し、この発言を巡って本島さんへの街宣車による抗議活動がおこなわれた。そんな中で1990年1月18日の銃撃事件が起こった。本島さんは市役所の玄関前で背後から拳銃で撃たれ瀕死の重傷を負った。事件の衝撃は大きかった。暴力で言論を圧殺するという民主主義の危機的な事態となった。このような事態のなかでも、本島さんは発言の撤回をされなかった。その前もその後も何ら変わる事のない本島さんの姿には不思議な存在感があった。言論の自由や民主主義について声高に語るより、愚直とも言える言動によって本島さんは民主主義の象徴的な存在となっていた。



長崎市長を退任した1995年以後も市民運動の先頭に立ち続け、「戦争も原爆も2度とあってはならない」という固い信念に基づいた言動はゆるぎないものだった。本島さんを言い表すなら3つの特徴がある。①多くの人に愛された庶民的な性格、②時には物議を醸した平和への固い信念、③弱い人や困った人を見て黙ってられない人情家。この3点で「本島等」は言い尽くせる。本島さんは常々「世の中はイデオロギーより温もりや情がまず先にある」と言い続けた。この本島等を語る3つの特色に当てはめれば、弱い者の味方に身を置こうと務めた言動は全てが理解できる。

本島さんの葬儀は11月2日中町教会で密葬という形で行われた。また、市民有志による「本島等さんを送る会」は12月13日に長崎市民会館文化ホールでおこなわれ、700人もの方が本島さんを偲んで花を手向けた。

平野伸人（全国被爆2世団体連絡協議会前会長）



本島等さん（元長崎市長）

■「戦争をさせない1000人委員会」賛同者が広がっています

「戦争をさせない1000人委員会」の賛同者が、11月末現在で、呼びかけ人は計117人となり、賛同団体は168団体、賛同者は1845人となりました。「賛同者一覧」はホームページに掲載しています（各地域の1000人委員会の賛同者になられている方々は除きます）。全国の皆様からのご賛同に、心より感謝申し上げます。「戦争をさせない1000人委員会」の運動をさらに広げるため、皆様のさらなるご賛同をよろしくお願い致します。

■12.19「戦争をさせない全国署名」第3次集約を内閣府に提出

今年3月から全国各地でとりくんできた「戦争をさせない全国署名」の第3次集約分について、12月19日に内閣府への提出を行いました。「戦争をさせない全国署名」は、第1次集約（6月12日提出）、第2次集約（11月10日提出）と合わせて合計253万9920筆に達しました。この間賜りましたご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

現在、2015年から開始する新しい署名運動に向け、準備を進めています。

私たち「戦争をさせない1000人委員会」は、これからも皆さんとともに頑張ります！



内閣府に署名を提出（12月19日）

■今後のとりくみ

「戦争をさせない1000人委員会」の組織は、ほぼ全都道府県で結成され、現在は各市町村、地域・職場レベルでの立ち上げにとりくんでいます。また全国各地で諸集会や諸行動も多様な形でとりくまれています。東京では3.20出発集会以降、情勢に対応して諸行動を重ね、7.1抗議行動から連帯の輪を拡大して、「解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会」とともに、「9.4総がかり行動」、「11.11総がかり国会包囲行動」にとりくんできました。これらのとりくみは大きく拡大・高揚しています。戦争をさせない1000人委員会では、今後次のようなとりくみを企画していますので、ぜひ皆さんご参加ください。

（1）「1000人委員会」の組織づくりと強化

市町村、地域、職場に1000人委員会をつくり、賛同者数は5000人を目指します。適宜、新たなチラシなどの宣伝資材の作成を行います。

（2）新たな署名運動

来年5月からの最大の山場に向けて、1月から新たな署名運動にとりくみます。要請項目には、違憲な閣議決定撤回、衆議院選挙後の情勢や日米ガイドライン改定反対、戦争関連法案反対などの内容を盛り込みます。目標1000万筆を目指して5月末を目途に集約し、政府・衆参両議長に提出します。署名運動と連携しての、街頭宣伝活動にとりくみます。

（3）新聞意見広告

全国紙への意見広告掲載に向けて、全国にカンパを要請し山場に向けてとりくみます。

（4）東京におけるとりくみ

今後さらに主催団体を拡大して、大規模な集会・抗議行動にとりくむことを検討しています。また脱原発団体などさまざまな課題で安倍政権の暴走と対抗している諸団体と連携し、総がかりの行動に向けとりくみます。諸日程は決定次第、ホームページ等でお知らせします。

（5）東京以外でのとりくみ

全国各地で地域や職場の「1000人委員会」をはじめ、多様なとりくみが行われてきました。引き続き、署名運動、学習会、各種集会、議員、地方議会への要請行動等にとりくみます。全国の皆さんのご意見などをいただきながら、さまざまなとりくみを行っていきます。

■全国のみなさんからのメッセージ

— ことごとく国民を裏切り続ける安倍内閣。特定秘密保護法、集団的自衛権、原発再稼働、沖縄基地問題・・・特にオリンピック招致で「原発はコントロールされている、福島から離れているから大丈夫」との無神経な発言。沖縄県知事選挙に至っては「結果がどうであれ辺野古への移設

は決まったことで粛々と進める」という発言は本当に悔しくてなりません。戦争への道を着々と進めているのは言うまでもありません。経済も格差が広がる一方です。そんな安倍政権になぜ一票を投じようとするのでしょうか。沖縄県知事選はオール沖縄で一体となって勝ち取ったのに、沖縄の人々の怒りをどう思っているのでしょうか。今回の選挙もさらに政権延長のチャンスを与えてしまうなんて、私たち国民は何を考えているのでしょうか。

でもあきらめてはいけません。子や孫の未来のために、これからも決してあきらめず、できることをやっていくしかありません。人間の命はこれからもずっと続くのですから、あきらめるわけにはいかないのです。(横浜市・主婦)

【声明】第47回衆議院総選挙の結果を受けて

2014年12月15日 戦争をさせない1000人委員会

12月14日に行われた第47回総選挙は、投票率52.32%(推計)と戦後最低となりました。各党の獲得議席は、自民党291、公明党35、民主党73、維新の党41、共産党21、社民党2、生活の党2、次世代の党2、無所属9であり、自民党と公明党の与党で憲法改正の発議に必要な3分の2を超える326議席を獲得するという結果となりました。私たち「戦争をさせない1000人委員会」は、安倍自公政権の延命を狙った党利党略による解散総選挙を批判するとともに、「戦争をする国」への暴走を止めるためのチャンスと捉え、平和・民主主義・脱原発を掲げる勢力の前進に向け、全力でとりくむことを呼びかけてきました。

今回、確かに民主党、社民党、共産党も善戦しましたが、「一強多弱」の政治状況を打破し、安倍自公政権の暴走を止めようという私たちの立場からすれば、きわめて残念な結果です。野党に真摯な総括を求めると同時に、私たちとしても選挙運動へのかかわり方について議論を深める必要があります。そのうえで私たちは、未来に責任を持つものとして鉢巻をしめなおし、とりくみのさらなる強化に向け、決意を固め合ひましょう。

安倍自公政権は今回の選挙結果を受けて、「集団的自衛権」行使容認などが「国民の支持を受けた」と捻じ曲げ、憲法違反の閣議決定に基づく日米ガイドライン改定や戦争関連法案提出、沖縄辺野古への基地建設、歴史認識の改ざん、貧困と格差の拡大、原発再稼働、そして憲法改悪へと突き進み、「戦後レジームからの脱却」を掲げつつ、「戦争する国」づくりに向け、大きく踏み出すことが予測されます。私たちは、こうした情勢のなかで2015年を迎えます。

しかし、安倍自公政権のこれらの目論見は、決してうまくはいきません。大々的に喧伝してきた「アベノミクス」も失敗しており、このまま続ければ生活破壊がさらに進行することが予測されます。そもそも安倍政権の個別政策は世論に支持されておらず、このようななかで辺野古への基地建設、原発再稼働、戦争関連法案などを強行するならば、ここまでに抱え込んできた矛盾が一気に噴き出すでしょう。



11.11 総がかり国会包囲行動にて

「戦争させない1000人委員会」は、今年3月の発足以来、全国でとりくみを展開してきました。

「1000人委員会」の組織は全国各地に広がっています。「戦争をさせない全国署名」は253万9920筆を集めることができました。そうして連帯の輪を拡大しながら、「9.4 総がかり行動」や「11.11 総がかり国会包囲行動」などにとりくんできました。これからの野党や労働団体、市民団体の奮闘を期待するとともに、「戦争をさせない1000人委員会」は引き続き全力でがんばる決意です。「戦争をさせない1000人委員会」運動をよりいっそう強化することと合わせて、連帯の輪をさらに大きく拡大して、来年、安倍自公政権を包囲し、退陣と政策転換の実現をめざします。どんな日本社会を未来に引き継ぐのか、今を生きる私たちの責任が問われています。ともにがんばりましょう。

<事務局からのお知らせ> 各地域のとりくみ、1000人委員会の立ち上げ、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきたいと考えています。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。